



病院理念：私たちは、信頼される医療の提供と働きがいのある病院を目指します



地域医療連携室 室長就任のごあいさつ 地域医療連携室長 湯汲 俊悟

このたび、伊東前地域医療連携室長の後任として、地域医療連携室長を拝命いたしました湯汲俊悟です。また、副室長は循環器内科の吉井が務めており、地域医療連携室スタッフとも協力しながら、院内外の連携強化に取り組んでまいります。

地域医療連携室は、地域の医療機関・介護施設・行政との橋渡し役として、患者さんが安心して適切な医療を受けられる体制づくりを担う重要な部署であると考えております。近年は、急性期医療のみならず、退院支援や在宅医療、病診・病病連携の重要性がますます高まっており、地域全体で患者さんを支える視点が求められています。

当院は中予地域のみならず、東予・南予を含めた県内各地の医療機関より多くの患者さんをご紹介いただいております。今後はこれまで以上に、広域からの



紹介患者さんを円滑に受け入れられる体制整備に努め、紹介元医療機関の先生方に「安心して相談・紹介できる病院」と感じていただけるよう、連携強化に取り組んでまいります。

私は呼吸器外科を専門としており、これまででは限られた診療領域での関わりが中心であったため、地域の先生方や関係機関の皆さまと直接お会いする機会も多くはありませんでした。今後は、ご挨拶に伺わせていただく機会も増えるかと思えます。日頃の診療の中で感じられていることやご要望なども含め、率直なお話を伺いながら、より良い連携体制づくりに努めてまいります。

微力ではありますが、地域医療への貢献と当院の発展のため、誠心誠意取り組んでまいりますので、皆さまのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



にゅうフェイスドクターズ

New Face Doctors



放射線科 松田 健

放射線科に赴任いたしました松田健と申します。平成4年に愛媛大学医学部を卒業し、今年で医師35年目になります。

前任の松山赤十字病院では約11年間、CT、MRI、核医学検査などの画像診断、ならびに消化管出血や産科出血などの緊急出血に対する血管内治療(IVR)を主に担当しておりました。昨年12月に一身上の都合により退職し、少し英気を養う期間をいただいておりますが、ご縁があって本年4月より愛媛医療センターにて復職させていただき運びとなりました。

当院は平成28年4月から松山医療圏の2次救急輪番病院に参加しています。私は前任地以前にも、坂出市回生病院、大分市医師会立アルメイダ病院、市立八幡浜総合病院、済生会松山病院といった各地域の救急拠点病院で勤務してまいりました。

救急診療における画像診断の果たす役割は大きく、特に夜間や休日、専門外の疾患にも対応せねばならない救急担当医師にとって、正確で迅速な画像診断結果が助けになり、それがひいては患者様の正確な診断や治療をサポートすることにつながると信じています。

直接患者様と触れあう機会は少ないですが、これまでの経験を生かし、当院の診療に貢献できるよう誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器外科 植木 貴史

4月より赴任いたしました、植木貴史と申します。出身はお隣の香川県です。愛媛大学を卒業し、松山市民病院にて初期研修を開始いたしました。その後は愛媛大学医学部附属病院および四国がんセンターにおいて外科研修を重ねてまいりました。これまでの研修では特に呼吸器外科領域に力を入れており、多くの経験を積むことができました。呼吸器外科を専門としてさらに研鑽を深めたいと考えております。

今回の赴任と同時に愛媛大学大学院へ進学し、研究活動にも取り組んでおります。臨床と研究、いずれも自分にとって重要な学びであり、将来的に患者さんへより良い医療を提供するための基盤になると考えております。そのため、業務の都合によりご迷惑をおかけする場面が生じる可能性がございますが、日々誠実な診療を心掛け、一つひとつの業務に丁寧に向き合っております。

呼吸器外科では気胸や感染症、悪性腫瘍の診断・治療を行い、さらに一般外科の診療においてもお役に立てるよう精進してまいります。私自身フットワークは軽くありたいと思っておりますので、気軽にお声がけいただけますと幸いです。まだまだ未熟な点も多い身ではございますが、温かくご指導いただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



当院は平成27年7月に在宅訪問診療中心のクリニックとして開設し、令和8年1月に「訪問診療クリニックそら」へ名称変更しました。現在、医師1名・看護師2名で、24時間対応の訪問診療を行っております。

訪問診療は医師が患者様のご自宅等を訪問し定期的に診療を行うもので、通院が困難になった方が対象です。院長は脳神経内科が専門であり、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症など神経難病の患者様が多いですが、認知症や脳血管障害などの患者様にも対応しております。ただ、定期的に訪問診療を行っている患者様以外の、その場限りの往診は原則行っておりませんので、その場合はかかりつけ医や近隣の医療機関への受診をお願い申し上げます。

当院は、自宅で過ごす患



者様とご家族様に寄り添えるクリニックでありたいと考えております。その人らしい生活や人生観を尊重しながら、必要な医療処置(胃ろうなどの経管栄養や人工呼吸器、自宅での看取りなど)について患者様・ご家族様、また訪問看護師やケアマネジャー、薬剤師などとも話し合いを重ねて対応しております。訪問できる患者様の数に限りはありますが、何かお困りの際はお問い合わせください。

また緊急時や入院が必要なときは、愛媛医療センターをはじめとした各医療機関と連携して診療を進めております。

患者様・ご家族様や地域の皆様に必要とされるクリニックとして、在宅で安心して療養生活を送っていただけるよう努めて参りますので、これからもよろしくお願いいたします。

また緊急時や入院が必要なときは、愛媛医療センターをはじめとした各医療機関と連携して診療を進めております。

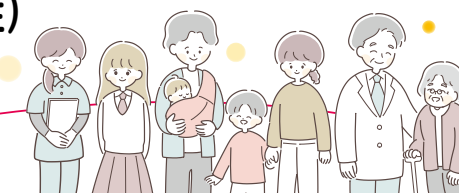
訪問診療クリニックそら

東温市牛瀬 331-1 Tel.089-948-4677



肺非結核性抗酸菌症 (NTM 症) と外科治療について

外科・副統括診療部長 湯汲 俊悟



「感染症なのに、手術をすることがあるの?」そう疑問に思われる方も少なくないかもしれません。

肺非結核性抗酸菌症(NTM症)は、近年患者さんが増えている肺の感染症です。咳や痰が長く続くことや、血痰、健診での胸部異常影などをきっかけに見つかることがあります。基本的には飲み薬による治療が中心となりますが、病変が限られている場合や、お薬だけでは十分な改善が得られない場合には、手術が治療の助けになることがあります。

私が医学部を卒業した頃は、「炎症や感染症に対する肺の手術を胸腔鏡で行うのは難しい」という考え方が一般的でした。しかし近年では、手術機器や技術の進歩により、NTM症のような炎症性疾患に対しても、状態が許せば胸を大きく開く開胸手術ではなく、胸腔鏡を用いた身体への負担の少ない手術

で行える症例が増えてきています。

また、病変が比較的限局している段階で手術を行うことで、病気の進行を抑えたり、長期的な感染コントロールにつながったりする可能性も期待されます。一方で、病気が進行すると炎症や癒着が強くなり、手術の負担が大きくなる場合もあるため、適切な時期に治療方針を検討することが大切です。

当院では呼吸器内科と呼吸器外科が連携し、患者さん一人ひとりの病状や生活背景を踏まえながら、無理のない治療方針を一緒に考えていきます。気になる症状や治療への不安がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

これからも、地域の皆さまに「困った時に相談できる病院」と感じていただけるよう、外科として地域医療に取り組んでまいります。

医療安全管理室 だより

こんなことをしています

医療安全部会の活動について

今回は医療安全部会の活動についてご紹介いたします。医療安全部会とは、簡単に言うと、病院内において、安全な医療の提供とその推進を行うために活動している作業部会のことを言います。

病院には、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、放射線技師、臨床工学技士、保育士、事務職等様々な職種のスタッフが働いており、それぞれの部署に医療安全推進担当者がいます。医療安全推進担当者は、部署の医療安全に努めるほか、月に1度の医療安全部会に参加し、医療安全に関する課題の検討、研修の企画と運営、院内巡視等を行っています。

医療安全部会では、①転倒・転落防止、②医療機器、③急変対応、④身体拘束最小化の4つのグループで活動を行っています。①転倒・転落防止グ



ープでは、転倒による骨折事故0件を目標に、患者さんの病態に応じた転倒対策ができるような研修企画を行っています。②医療機器グループは、心電図モニターのアラーム対応の状況を確認する院内ラウンドを実施し、アラームの状況を把握、問題点についての指導を行っています。③急変対応グループは、急変時の実際の場面を想定してシミュレーション研修を企画しています。

④身体拘束最小化グループでは、患者さんの尊厳を重視し、代替案を提案する等、身体拘束を行わない看護を目指して、多職種メンバーでカンファレンスをしています。これらのグループ活動の結果をまとめて報告し、問題点については各部署に改善を依頼し、良い取り組みについては他の部署にも共有しています。

今後も医療安全部会のグループの活動を継続し、医療安全推進に努めていきます。

(医療安全係長 新田早織)

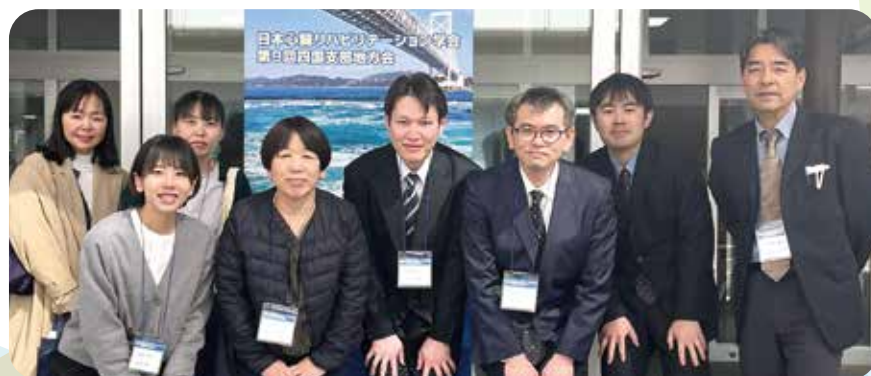
心臓リハビリテーション学会発表

令和8年3月15日に「日本心臓リハビリテーション学会第9回四国支部地方会」(徳島市)に参加・発表して参りました。

私は「術前心臓リハビリテーションを実施した高齢心不全患者の報告」という題目で、フレイル(虚弱)を有する高齢心不全患者さんが、無事手術を実施するために、入院下での術前心リハ(運動・栄養)の重要性を説明しました。

今回の検討では冠動脈バイパス手術前の患者さんが多数を占めましたが、患者さんの高齢化を考えると他の術式も含め周知・拡大が期待されます。

当科吉井豊史医師からは「術後の心臓リハビリテーションにおける基幹病院との連携による心臓血管外科回診の導入効果の検討」という題目で、令和6年10月より地域医療連携の一環として、当院から近距離にある「愛媛大学心臓血管外科」医師2名(隔週交代制)による術後回診を開始した結果、患者さん



の満足度が上昇したことや、術後から当院退院までの日数が短縮できたことを報告しました。

創部(手術の傷口)の治りが遅かった患者さんでも当院へ早めに転院し、リハビリをしながら慎重に抜糸できました。基幹病院から当院へ心リハ目的での紹介件数は増加しており、当院に対する信頼・期待と受け止めています。

最後になりますが、八木秀介会長(徳島大学)も述べられています通り、心リハは単なる運動だけでなく、多職種が連携して患者さん中心の包括的ケアを実現する医療モデルです。これからも病院スタッフ間、他院とも密に情報共有しながら、患者さんにより満足して頂ける心リハを提供できるように努めて参ります。(循環器内科医師 関谷健佑)

療育の窓

音楽の力を実感！ 一青窈さん音楽ライブ

令和8年1月31日(土)、愛媛医療センター重症心身障害児(者)病棟デイルームにおいて一青窈さんの音楽ライブを開催しました。

一青窈さんは、2023年8月に「一般社団法人gigiプロジェクト」を立ち上げました。長期入院や養護施設に入所中などの理由で生活に制約がある方がアーティストのライブに参加できない現状に配慮し、小児病棟や病院のホール等で音楽ライブを行い、患者さんやそのご家族、さらには職員に音楽の感動を届けています。



快く引き受けていただき、今回この音楽ライブを実現させることができました。

一青窈さんのデビュー曲「もらい泣き」からスタートしたライブには、患者さん50名と職員20名の約70名が参加し、瞬く間に透き通った歌声に魅了されていきました。ご自身の歌だけでなく患者さんから事前にリクエストをしていた9曲をメドレーにして歌っていただき、その歌声に合わせて声を出して一緒に歌ったり、身体でリズムをとったりする患者さんの姿が見られました。

また、一青窈さんは歌いながら患者さんのもとまで行き、手を添えたり抱きしめたりしながらお一人お一人に語りかけるように歌われ、涙を流す患者さんも見受けられました。

gigiさんの「明日を生きる力に変える歌を歌いたい」という使命通り、歌で患者様を元気にしていただきました。改めて「音楽の力はすごい!」と感じさせられました。一青窈さんを始めとするgigiの皆さん、素敵な時間をありがとうございました。(主任保育士 須内留美子)

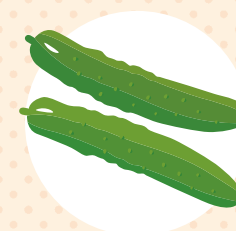
四季燦餐 きゅうりの巻

毎日暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

今回は、皆さんに馴染みのある「きゅうり」についてご紹介したいと思います。現在は、ハウス栽培が普及し1年中見かけられるようになりましたが、6月～8月が旬の代表的な夏の野菜です。

きゅうりは、今から3000年前には西アジア地域でも栽培されており、日本には中国を経由して、9世紀から10世紀頃までには伝わったとされています。「きゅうり」という名前は、熟した時の色に由来する中国語の“黄瓜”が語源とも言われるようです。

江戸時代末期には、品種改良が進み、歯ごたえと味が良くなったことで野菜として認められ、後にサラダ用野菜の代表格と言われるほどよく使われるようになり、現在では国民一人あたりの消費量は世界一と言われるほどになったそうです。



成分の約95%が水分と多いため、体の中の余分な熱を放熱することで体を冷やす効果があり、カリウムが含まれることで、むくみ予防・改善にも効果があります。

独特の青臭さの元になっている香気成分「ピラジン」は、血液をサラサラにし、血栓や血液凝固を防ぐ働きがあるため、高血圧・動脈硬化予防にも効果があり、「ホスホリパーゼ」という脂肪分解酵素が含まれるため、体内の脂肪の分解・代謝向上効果があるともいわれます。また、1本(約100g)あたり約15kcalなので、カロリーが気になる方にもおすすめの食材の一つです。

暑い時期には、きゅうりを使って酢の物やサラダ、炒め物などさっぱりとした味と食感を楽しんでみてはいかがでしょうか。(カリウム摂取に注意が必要な方は主治医に確認されることをおすすめします。)

地域医療連携室だより



特集

眠りと脳の健康を見直してみませんか

「運転従事者脳MRI健診」と「睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来」のご案内

▶運転従事者脳MRI健診を開始しました

愛媛医療センターは、このたび「運転従事者脳MRI健診実施医療機関」として登録されました。

皆さんは、「脳卒中」や「脳動脈瘤」が自覚症状のないまま進行することをご存じでしょうか。脳の病気は突然発症し、運転中や仕事上の重大な事故につながる可能性があります。

当院で実施する運転従事者脳MRI健診では、MRI・MRAを用いて脳梗塞や脳出血の痕跡、脳動脈瘤、脳血管の狭窄などを調べることができます。この健診は、トラックやタクシー、バスなどの運転業務に従事する方だけでなく、営業職や訪問業務など日常的に車を運転する方にもおすすめです。

愛媛医療センターでは、地域の皆さまが安心して働き、暮らし続けられるよう、予防医療と早期発見に取り組んでいます。ご利用いただく場合、企業様より「一般社団法人 運転従事者脳MRI健診支援機構」への登録が必要となります。企業や事業所単位でのご相談も承っております。

ご本人やご家族の健康、そして地域の安全のために、ぜひご活用ください。

愛媛医療センターでは、地域の医療機関との連携を大切にしながら、専門外来の活用を通じて、地域全体で健康を支える体制づくりを進めています。かかりつけ医の先生からのご紹介はもちろん、ご自身やご家族の健康について気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

これからも愛媛医療センターは、地域の皆さまとともに、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。

お問い合わせ・ご相談は地域医療連携室までよろしくお願い申し上げます。

愛媛医療センター 地域医療連携室直通▶

TEL 089-990-1923 FAX 089-990-1896



▶「睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来」について

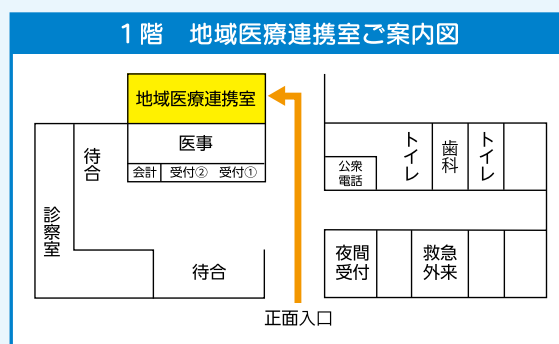
私たちは毎日当たり前のように「睡眠」をとっていますね。健康な生活を送るうえで大切な睡眠。その背景には自覚しにくい病気が隠れていることがあります。

「十分寝ているはずなのに日中眠い」「いびきが大きいと言われる」「朝起きても疲れが取れない」といった症状はありませんか？こうした症状の背景に、睡眠時無呼吸症候群(SAS)が隠れている場合があります。SASは睡眠中に呼吸が何度も止まる病気で、**高血圧や心疾患、脳卒中のリスクを高める**ことが知られています。当院のSAS外来では、**検査から診断、治療まで一貫して対応**しています。

最近ではスマートフォンやスマートウォッチなどで睡眠状態を確認できるようになり、睡眠への関心が高まっています。しかし、アプリだけでは病気の有無を判断することはできません。気になる



症状がある場合は、専門的な検査を受けることが大切です。良質な睡眠は、元気な毎日を支える大切な土台です。



ちよつと 言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします

フルートにチャレンジ!

どちらかといえば多趣味で、あれこれと手を出しはするが、物になったものはひとつも無い。という困り者の私だが、懲りもせず、またひとつ手を出してしまった。

すこぶる付きの音痴で、当然楽譜も読めないため、音楽関係の趣味は端から諦めていたのだが、幼い頃からその音色に惹かれていた、フルートを買ってしまった。(似合わねえ。と思ったそのあなた、正座!)譜面台と入門書と手入れ道具が付属した、ビギナーズセットだ。

届いた荷物を解くのももどかしく、早速組み立ててみると、銀色に輝く器体は美しく、入門用の廉価品とはいえ、澄んだ音色を響かせてくれそう。

テキストに従って、まずは頭部管だけで音を出してみた。これは比較的直ぐに習得できたのだが、全体を組み上げての音出しはなかなか骨が折れた。低音域は何とか出るようになったが、未だに中音域との吹き分けに苦労している。「澄んだ」

とはほど遠い雑音混じりだが、それでも「フルートかも知れない」という音は出せるようになった。

楽譜の方は、幼い頃からピアノを習っていた妻が読めるので、イロハから教わりつつ、暗号か古代文字にしか見えない譜面と向き合っている。

現在は、八音だけで演奏できる初心者向けの「おオスザンナ」「草競馬」「ケンタッキーの我が家」「アメイジング・グレイス」の四曲を練習中だ。

歳とともに低下する記憶力、固まったように動かない指を、叱咤激励しつつ練習の日々。

スザンナは石に蹴躓いて転びそうだし、競馬は全頭コースアウト。ケンタッキーの家は倒壊寸前。アメイジング・グレイスはまさにアメイジングなメロディを奏でている。定みなく演奏できるようになるのはいつのことやら…というのが現状だ。

現在の最終目標は、昭和中期に加藤登紀子さんと長谷川きよしさんのデュエットでヒットした「灰色の瞳」や、「コンドルは飛んでいく」などの、フォルクローレ系の曲を吹けるようになることだが、はてさて…大願成就はいつのことやら。(樹懶菴)

石鎚登山にチャレンジ!

病院広報誌「石鎚」の編集を担当するようになり、「石鎚」という名前をもっと深く知りたいたいと思い、今回初めて石鎚山へ登りました。

険しい登山道の先には、澄みきった青空と壮大な景色が広がり、石鎚山に自生する桜やアケボノツツジが静かに咲いていました。厳しい自然の中で力強く咲く姿に、思わず足を止めて見入ってしまいました。

登山前は「広報誌の名前を変えてもいいかな」と考えたこともありましたが、しかし実際に山へ登り、自分の目で見て風を感じたことで、「石鎚」という名前への思いは大きく変わりました。

ただ、感動だけでは終わらないのが私です。長い登山道や、鎖と格闘し山頂に着いた時には、同行者ともども声も出ないほど疲れ切っ

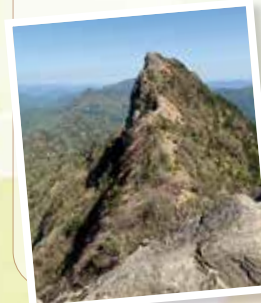
ていました。「やっと着いた……」達成感に浸りながら、楽しみにしていたカップラーメンとコーヒーの準備を始めようとして、私は固まりました。ヤカンがありません…自宅に忘れてきたのです。

しばらく沈黙した後、同行者が石鎚山頂で山々に向かって叫びました。「やると思ったわー……!!」

結局、アウトドア好きの父から借りたスノーピークのステンレスコップでお湯を沸かすことになり、コップの底は見事にだるまさんのような丸い形に変身しました。後日返却しようとして、父は苦笑いしながら受け取りを拒否。新品を買って返しました。

石鎚山は、壮大な景色だけでなく、自分の準備不足まで容赦なく教えてくれる山でしたが、思い出深い登山となりました。これからも「石鎚」の名前を大切にしながら、地域に親しまれる広報誌づくりに努めたいと思います。

(編集員 こっぱみじんこ)



今月の表紙 東温市のひまわり畑

撮影：管理課 小倉

撮影場所：東温市北方のひまわり畑



診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前 午後	船田 淳一	吉井 豊史	関谷 健佑 吉井 豊史	船田 淳一 宮崎 慈大	関谷 健佑
消化器内科	9診	午前 午後	廣岡 可奈 —	—	横山 桂 —	久保 義一	—
糖尿病内科	9診	午前 午後	—	加藤 ひとみ	—	—	加藤 ひとみ —
	11診	午前 午後	—	—	首藤 祥子	—	宮崎 万純(第4) —
	12診	午前	—	—	—	中口 博允	—
呼吸器内科	10診	午前 午後	阿部 聖裕	伊東 亮治	佐藤 千賀	三好 誠吾	山本 哲也
	11診	午前 午後	—	渡邊 彰	—	仙波 真由子	伊東 亮治 —
	8診	午前 午後	— 三好 誠吾	—	—	—	—
脳神経内科	8診	午前	松本 清香	—	—	松本 清香	—
	12診	午前 午後	— 山崎 亮	戸井 孝行 —	— —	— —	戸井 孝行
整形外科	14診	午前	—	—	—	石川 真史	—
	15診	午前	宮本 良治	—	石川 真史	宮本 良治	—
	16診	午前	青木 一将	玉井 辰弥	青木 一将	—	玉井 辰弥
消化器外科	14診	午前	—	鈴木 秀明	森本 真光	—	—
	15診	午後	—	—	—	—	石丸 啓
呼吸器外科	14診	午前	—	—	—	—	湯汲 俊悟
	15診	午前	—	植木 貴史	—	—	—
小児科 (神経外来)	14診	午後	菊池 知耶	—	桑原 こずえ (第1.3.4) 野間 真依子 (第2)	—	菊池 知耶
心臓外科外来★院内紹介のみ	16診						泉谷
脳神経外科★院内紹介のみ	14診			松本・柴垣(午後)			
ペースメーカー外来	16診					第2・4(午後)	
フットケア外来	小児面談室					第1・3・5	
ペインクリニック	12診				山内(午前)		
アスベスト外来	14診			午後(予約制)		午後(予約制)	
息切れ外来	11診		渡邊(13:30～)				
SAS外来	11診						渡邊(14:00～16:00)
頭痛外来	16診					永井(第2・4午前)	
神経難病	8診				尾原		
鼠径ヘルニア外来	14診			鈴木(午前)			
気胸外来	14診						湯汲(午前)
N T M 外来	8診				第2・4(13:30～15:30)		
装具	15診		10:30～	10:30～	10:30～	10:30～	

○外来受付時間は8:30から11:00までです。午後は13:00から15:00までです。

※午後診療は呼吸器・循環器・消化器内科のみとなります。

(脳神経内科・外科・整形外科の受付は11:00まで)

※予約外の受付は午前11:00までとなります。

※予約の方は予約の時間までにご来院ください。

※土・日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は休診です。

その他の休診につきましてはホームページでご確認ください。



愛媛医療センター
ホームページ



交通
のご案内

電車：伊予鉄道横河原線 愛大医学部南口駅下車 徒歩3分

横河原駅下車 徒歩7分

バス：伊予鉄松山市駅より川内線 横河原バス停下車 徒歩10分

車：川内インターから5分

東温スマートインターから5分

無料駐車場完備

独立行政法人 国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原 366 Tel.089-964-2411 Fax.089-964-0251

ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

診療日時/月～金 8:30～11:00

休診日/土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

診療科/内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、
糖尿病内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、
小児科、放射線科、麻酔科